

❖ 企業がクラウドを導入する3つのメリット ❖ 「使うアプリケーションだけ」「必要なデータ容量だけ」使用料を払うのがクラウドの原則

いまや「クラウド」は、新しい技術に対する様子見の時期はとっくに去って、様々な業務システムで導入されるまでになりました。クラウドを導入する企業の規模や業種についても、大企業から中堅・中小・ベンチャー企業、メーカーから流通、金融と、規模や業種を問わずほぼすべてを網羅しています。

企業でのクラウド導入が加速している背景には、導入メリットが非常に大きいからです。

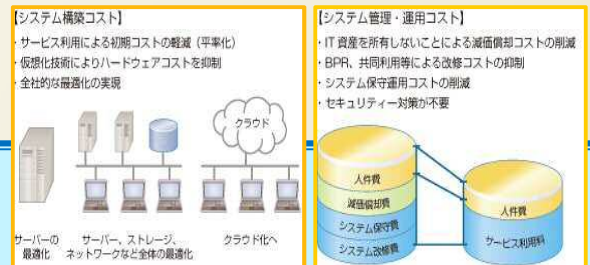
導入目的として代表的なものは大きく3つあり、これらの目的は、そのままクラウドのメリットでもあります。

merit1

コスト削減

「クラウド」以前はサーバー1台いくら、アプリケーション1本いくらというように購入コストの積み上げで導入コストが決まっていた。また大規模なシステムほどシステム担当者の人件費もかかっていた。極端な場合、「クラウド」ではユーザーがサーバーなどのハードやアプリケーションを持たないので、そうした利用料金の考え方も大きく変わっています。ユーザーは購入代金を支払うのではなく利用した分だけその対価を払うのです。

例えていうと、社用車を自社で買って運転手を雇ってというやり方から、月決め料金で運転手付きのレンタカーを借りて行き先だけ指示するというやり方に変えるようなものです。

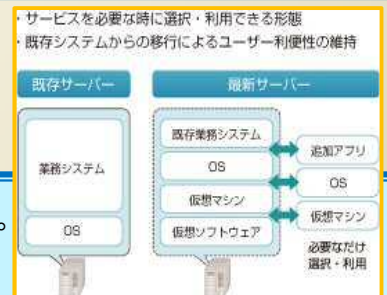


merit2

システムの柔軟性

システムの柔軟性についても「使った分だけ払う」というクラウドはメリットがあります。「クラウド以前」では、事業規模の拡大や事業所移転等に応じてサーバーの増設や移転といった手間やコストが発生していました。ところがクラウドではシステム要件だけを検討し、実際の作業はクラウド事業者任せにすることが可能となります。必要なものを必要な時に利用すればいいので、需要予測に対応した増設・更改作業のための人件費の削減にもつながります。

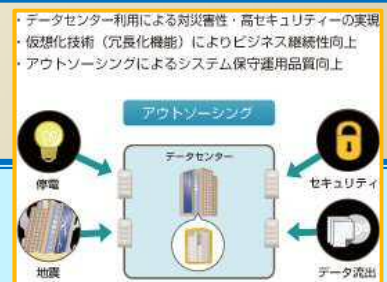
利用サービスの追加、廃止等の容易さもクラウドの柔軟性の一つといえます。



merit3

BCP(事業継続計画)への貢献

データのハッキング対策やウィルス対策は、企業のシステム担当者の悩みの種でした。サーバーの故障や通信障害への対応もユーザーの責任で行われてきました。クラウドでは一般的にユーザーが利用する環境は全てクラウド事業者が責任を持ちます。セキュリティ対策をはじめ、地震などの天災、停電によるシステム障害、データ損失に備えたバックアップなどはあらかじめクラウド事業者側で対策を講じているため、ユーザー側が考える必要はありません。



※参考資料：N T T西日本



① ハロウィンはケルト人のお祭りが起源！

ハロウィンの起源はケルト人のお祭り、「サウイン祭」を起源としているという説が有力です。

「サウイン」はアイルランド・ゲール語で11月を意味し、旧称を「All Hallows」と言いました。

「All Hallows」の前夜、つまり「All Hallows' Eve」の10月31日が、「Halloween」=ハロウィンと呼ばれるようになったのです。

ハロウィンの発祥地はテレビニュースの映像などからアメリカにあると思われがちですが、オリジナルはヨーロッパ、アイルランドのものだったわけですね。

② 仮装するのは「魔除け」のため

ハロウィンと聞いてすぐに思い浮かべるのはおばけや魔女の格好をする「仮装」ではないでしょうか。なぜハロウィンに仮装をするのか？これにはちゃんと、理由があるのです。ケルト人にとって10月31日=ハロウィンは1年の終わり。この日の夜は死者の霊が家族を訪ねに来たり、精霊や魔女が出てくると信じられていました。日本でいうところのお盆といったイメージでしょうか。

ハロウィンに仮装するのは、これらの霊から身を守るため、または仮装している姿を見て悪霊たちが逃げていくため、つまりは魔除けのためと言われています。

③ シンボルカラーのオレンジは収穫、黒は死を表している

ハロウィンのテーマカラーといえば、やっぱりオレンジと黒。この色にも、またちゃんと意味があるんです。

サウイン祭の日は、ケルト人にとっては収穫期の終わり、そして長く暗い冬の始まりを分かち、境界線を意味していました。そこで収穫を表すオレンジ、冬の長い夜や死を表す黒をハロウィンのシンボルカラーとして。

④ もともとはカボチャではなく、カブが使われていた

ハロウィンにはおばけカボチャの提灯、「ジャック・オー・ランタン」が欠かせないアイテムですよ。でも、実はもともとケルト人のみなさまがランタンとして使っていたのはカボチャではなく、誰にでも簡単に手に入るカブをくり抜いたものだったと言われています。

それが、アメリカにハロウィン文化が伝わった際、アメリカでの生産量が多い農産物だったカボチャに変化したのだとか。

⑤ 「ジャック」はあの世とこの世を彷徨う霊の名前！

おばけカボチャの「ジャック・オー・ランタン」のジャックって、一体何奴？

これはアイルランドの伝説に由来します。むかしむかし、人をだましてばかりいるずる賢い男がいました。その名は、ジャック。ジャックは悪魔をだまし、死後自分が地獄に落ちないように約束させました。実際、死後の世界では地獄へ行くことは回避できたのですが・・・生前の悪事をなかつたことにはできず、天国へ行くことも許されなかったのです。こうしてジャックは、明りを灯した提灯を持ち、天国にも地獄にも行けずあの世この世をさまよい続ける羽目になった・・・ということです。

参考資料：マイナビAGENT



近年、急に勢いが増してきて定番行事になりつつあるハロウィン。最近では時期が近づくと色んなお店で沢山のハロウィングッズを目にしたたり、様々なイベントでハロウィンイベントが開催されていますね。そこで意外と知らないハロウィンの豆知識をご紹介します～